

夏の企画展

戦争の時代

戦時下の子どもたち



出征兵士に敬礼する少年



国民学校の軍事教練



椎田国民学校防護団



出征兵士と子ども

2024年7月17日(水)～9月1日(日)

会場／船迫窯跡公園体験学習館

時間／9:00～17:00(月曜休館/入場無料)

* 入館は16:30まで。

* 8/12(月)は開館。翌日13日(火)休館。

夏休みイベント 昆虫博士と里山探検!

電話申込
が必要

船迫窯跡公園の野山を歩いて、昆虫観察を行います。
雨天時は館内で講師による昆虫のお話を聞きます。

日時／2024年8月18日(日) 9時集合(11時頃解散予定)

講師／小野正則氏(添田町自然観察クラブ「ミミズク」会員)

定員／30人 * 小学3年生以下は保護者同伴。申込先着順。



主催：築上町教育委員会／申込・問合せ：船迫窯跡公園 (☎0930-52-3771)

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。

I. 戦争の時代へー日中戦争と太平洋戦争



日中戦争 戦勝祈願旗行列
(椎田高等実業女学校昭和14年卒業アルバムより)

昭和恐慌を契機に国内経済の行き詰りを打破するため、中国大陸に資源と市場拡大を求めた日本は、昭和6年(1931)、関東軍が自ら仕組んだ南満州鉄道爆破事件を契機に、軍事行動を拡大し、半年ほどで中国東北部を占領し、満州国を建国した。(満州事変)

昭和12年、南に進出する関東軍が、満州国と中国との国境付近(北京郊外)で中国軍と衝突(盧溝橋事件)し、日中戦争が始まった。

昭和14年、第二次世界大戦が始まると、日本はヨーロッパの支配が手薄になった東南アジアに進出し、アメリカ、イギリスの中国への支援ルートを遮断しようとするが、屑鉄・石油全面輸出禁止など対日経済封鎖により戦線は膠着した。

日本国内でも昭和16年(1941)10月に乗用車の石油使用が全面禁止され、燃料不足の危機感から対アメリカ開戦が声高に叫ばれ始めた。

12月8日、日本海軍がハワイ・オアフ島の真珠湾を奇襲攻撃し、日本陸軍はマレー半島などアジア太平洋各地で一斉に軍事活動を開始し、アメリカ、イギリスに宣戦を布告し、太平洋戦争が始まった。

II. 戦時下の学校教育

昭和16年(1941)4月、義務教育は尋常小学校(就学期間6年間)から国民学校初等科・高等科(就学期間8年間)に変更された。

国民学校では、児童は「**少国民**」と呼ばれ、国民科、理科、体育、音楽科の4教科を学び、特に体育科では、軍人を教官に軍事教練が行われ、天皇や国のために戦う国民を育成した。

すべての学校には天皇皇后の御真影(写真)と教育勅語(明治天皇が定めた国民教育の理念)を納めた奉安殿があり、前を通る際、最敬礼をすることとされた。

昭和17年以降は毎月8日を大詔奉戴日(開戦詔書が出された日)に定め、児童は教師に引率され最寄りの神社で戦勝祈願した。

戦争末期、食糧不足から学校生活の大半は田畑での勤労奉仕になり、授業はほとんど行われなくなった。昭和18年、労働力不足を補うため「**学徒戦時動員体制確立要綱**」が閣議決定され、農作業のほか軍需関連工場での勤労奉仕も行われるようになった。



鐘宅神社(白田)参拝(昭和19年)



椎田国民学校 尽忠報国学会



(左) 八津田国民学校の奉安殿
(右) 椎田国民学校の奉安庫(町文化財)



葛城国民学校勤労奉仕(昭和18年)

III. 築城飛行場建設と動員された子どもたち



京都府青年団による基地建設風景
(航空自衛隊築城基地所蔵)

築城海軍航空隊飛行場の建設は昭和14年(1939)に始まり、昭和16年に太平洋戦争が始まってからは建設が急がれ、朝鮮半島から徴用された人々を含む多くの労働者が24時間体制の突

貫工事で、昭和17年に完成した。飛行場面積は145万㎡で、長さ1,800m、幅50mの滑走路が整備され、工事中は築上中学校、豊津中学校、田川中学校(旧制中学/現在の県立高校)の生徒のほか、椎田・八津田国民学校児童も滑走路の草取りや基盤となるグリ石集め等の労働に参加した。

築城海軍航空隊は当初、操縦士育成飛行場だったが、日本の戦況悪化により、昭和17年夏以降は実戦部隊も配属され、最大3,000人の海軍兵士が滞在した。そのため、兵舎が不足し、多くの兵士が飛行場周辺の民家で下宿生活した。

昭和20年3月18日には、ここから神風特別攻撃隊菊水部隊銀河隊が離陸し、九州南東海上のアメリカ軍機動部隊の艦船に体当たり攻撃を行い、乗員15人が死亡した。

IV. 空襲と戦時の暮らし、そして終戦へ

戦時の暮らし

昭和19年(1944)6月、北九州の官営八幡製鉄所を狙った空襲があり、築上町内でも空襲に備えた防火訓練や、上陸したアメリカ軍兵士と戦う竹槍訓練が行われた。

また兵器製造のため、寺の釣鐘や仏具など金属製品が戦時供出された。兵員不足を補うため、臨時召集令状(赤紙)により多くの民間人や学生が戦地へ送られた。労働力・食糧不足が深刻になった。



防火訓練(延塚記念館前/昭和17年)



梵鐘供出(築上町水原/昭和17年)

築城海軍航空隊への空襲

昭和20年(1945)3月から8月まで7回空襲に遭った。

特に8月7日の空襲では、重箱池周辺で作業中の民間人数と37人の兵士が死亡した。上城井国民学校(築上町本庄)では機銃掃射で教師・児童4名が死亡し、数人が負傷した。翌8日(地元証言9日)、局地戦闘機「紫電改」がアメリカ軍小型戦闘機4機と戦闘の末、小原に墜落し、乗員が死亡した。



現在の重箱池(横井塚池/西八田)



太平洋戦争戦死者慰霊碑(上城井小)